

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
09
2010
弥生・卯月

2010年度事業方針

開祖生誕100年に向け、
組織機構改革を推進する



開祖生誕100年に向け、組織機構改革を推進する

金剛禪総本山少林寺

昨年度、打ち出した事業方針・計画を引き継ぎ、当教団として2010年度の事業方針、計画を以下のとおり実施します。

金剛禪総本山少林寺のCI

(Corporate Identity)は、「自己の可能性を信じ、仲間とともに

を問わず、広く地域と密着した
コミュニケーションを有し、人々の生
活や将来に役立つ実践活動を推
進する」ことです。10年度は、

11年4月より施行される「組織
機構改革」に向けて、万全の準
備を整える年度となります。

組織機構改革とは、少林寺拳
法のオリジナリティを引き立て
ていくために、時代に即応した
組織の枠組みを、より最適なも



のへ改善していくものです。

また、10年度は、開祖生誕1
00年の記念事業に向けての準
備期間の1年でもあります。

組織機構改革が「ハード」面の
改革であれば、開祖生誕100
年事業は、組織風土を新鮮なも
のへと切り替えていくための

「ソフト」面での改革と位置づけ
られます。

急激な時代の変化の中で、
「開祖の志」を貫徹する組織体に
私たちが脱皮するための年度と
したいと思えます。

それらを踏まえて、10年度の
事業方針ならびに事業計画を、
次のように実施します。

2010年度事業方針

- ① 少林寺拳法グループのビジョ
ンの下、より一層の少林寺拳法
の価値と信頼性の向上を図る。
- ② 組織機構改革に基づく作業を
迅速に実施する。

③ 本山ならびに、道院の布教体
制・環境整備により、更なる門
信徒の教化育成、布教の充実を
図る。

重点実施項目

(1) 組織機構改革に向け、グラン
ドデザインに基づいた組織、手
続き整備を図る。

ブランドデザインに基づいた
組織機能を活性化させていくた
めに、本山の風土改革、行事改

革、業務改革、財政改革を進め
ます。また、道院長の事務手続
を軽減と、本山内の事務効率化

を図り、併せて内局体制の最適
化を図ります。

(2) 開祖生誕100年に向けての 事業を推進する。

開祖語録(法話)集の編纂と、
少林寺拳法創始50周年(『五十年
史』発行)以後の組織変遷の編纂
を継続します。

また、現代における少林寺拳

法の存在価値を感じることで
きるよう、開祖生誕100年事
業を推進していきます。

(3) 若手(20〜30代)、後継道院長
の育成と、組織活性化対策を図
る。

都道府県教区研修会または小
教区研修会の開催件数を09年度
以上に増やし、教学や易筋行指
導法、ならびに布教者育成を促
進します。

また、「行としての少林寺拳
法をより深く理解、体得するこ
とができる本山」を目指し、各
種講習会、研修会の企画を充実

させ、本山の求心力を図ります。
併せて、魅力ある若手指導者
の育成推進にも、引き続き力を
注ぎます。

(4) 継続的に門信徒数の増加推進
と、教団の拡充、強化を図る。

公式ウェブサイト、広報誌
『あ・うん』などの広報媒体を活

用し、新規入門・復帰の促進を
図ります。新入門者や復帰者増
加のため、性別・年齢層・行の
あり方に応じたコース制の施行
を継続します。

(5) 少林寺拳法の価値と信頼性の
向上、バリエーションの継続。

「少林寺拳法の教えの下に確
固たる世界一流の幸福運動を展
開するグループとなる」という
グループビジョンの下に、バ
リエーションアップ勉強会を推進して
いきます。

門信徒(指導者・拳士)の安全
管理、個人情報保護活動、薬物
使用防止などの啓発活動も併せ
て実施していきます。

* * *

10年度は、組織機構改革施行
前年の大変重要な年となりま
す。私たち指導者であります一
人ひとりの心も、新たに生まれ
変わり、希望をもった一年にし
たいと思えます。

そして、道院に集うすべての
拳士とともに、「開祖の志」とは
何であるか、また、現代社会に
おける少林寺拳法の存在価値を
どのように発揮していくかを考
えていくことのできる、有意義
な一年を送りたいものです。

引き続き、教団活動へのご協
力をお願いいたします。

2009年度本山行事報告

09年度に本山で開催された主な行事について、以下のとおり報告する。(10年2月現在)

- ① 道院長研修会…4回実施した。新しい試みとして、技術修練では選択制を取り入れ、講義は道院長としてのキャリア階層別に行われた。また、総裁とのディスカッションや僧階講義も盛り込まれた。
- ② 講習会…3回実施し、396人が受講。「少林寺拳法を学ぶ

ことは人としての生き方を学ぶこと」をテーマに掲げ、教義を日常生活に生かせるよう、技術修練と講義を織り交ぜて行った。

- ③ 道院長資格認定研修会…2回開催し、68人が受講。道院長になるという志を実現させるための研修として、金剛禅の教義の面・道院運営の面・各種手続きの面、それぞれの講義や指導を行い、各種審査を実施した。
- ④ 僧階補任講習…3回実施し、25人が受講。金剛禅の教義や儀

式要領を学び、布教者としての原点を再確認し、質を高める講習を行い、補任請願者には僧階辞令が授与された。

- ⑤ 帰山…7回実施し、996人が参加。少林寺拳法の原点である本山の空気に触れ、修練や法話を受けることで、日々の修練への思いを新たにできるよう実施した。
- ⑥ 道院認証数…09年度内で50人が新たに道院長としての認証を受けた。そのうち、40歳以下の

若手道院長は7人であり、今後若手道院長の育成に力を注ぎたい。

- ⑦ 企業研修…一般企業からの部外研修を受け入れ、09年度は71人が参加。「気づき」をテーマに、金剛禅の教義を人生観や仕事観につなげ、人間力向上のきっかけを与えられるような内容を展開し、好評を博した。なお、受け入れ先の企業は、2年続けての申し込みである。
- ⑧ 達磨祭…本堂での法要をはじめ

め、本山内各所で出店などの催し物が並び、1600人の来山者で賑わった。達磨祭は年に1度の本山一般解放日であり、一般の方に金剛禅に触れていたたく絶好の機会として今後も取り組んでいきたい。

- ⑨ 本山考試員・審判員研修会…98人が受講。より質の高い大会審査や昇級・昇格考試を実施していくために、講義・実技・実習を通して、考試、審判技術の向上を目的として開催した。

2010年新春法会

誇りを持って金剛禅運動の活性化を図る

1月10日、本堂にて700人を超える参列者のもと、新春法会が挙行された。

代表年頭挨拶では、「人々の価値観が多様化した現在、何を頼りに生きればよいかと迷う人も増え、さまざまな社会問題が起きている。今こそ私たちが、全国の道院を地域の助け合いの場として、社会から頼られる存在になることができることを確信している。このような道院活動を展開することこそが、社会に役立つものと感じ、誇りを持って今後とも展開したい。そし

て、基本理念に基づいて、金剛禅運動の活性化と拡大を図りたい」と、抱負を述べた。

その後、道院長勤続50年、45年、40年を対象とした表彰が行われ、長年にわたって金剛禅教団を支えてこられた功績をたたえ、表彰状が授与された。

そのほかにも、禅林学園表彰、少林寺拳法世界連合特別功労表彰、少林寺拳法グループ表彰がそれぞれ行われた。

門信徒代表年頭挨拶では、2009年に道院長の認証を受けた、若手道院長である村田素彦加古川米田道院道院長が、「今の社会情勢の中、少林寺拳法が進むべき道はどこなのか。組織機構改革により、変わらう

とする本山を支えるためにも、若手ならではの感性を磨き、そして、門信徒一同が一致団結し、地域社会の活性化に貢献していきたい」と、力強く決意を

表明された。

なお、前日の9日には道院長勤続35年、10年の表彰式、ならびに、正範士の允可授与式が

開催された。(小林博紀)

根本道院として研究を深める

浦田代表が本部道院道院長に就任

2010年1月より、本部道院が、新体制で運営を開始した。道院長には、浦田武尚代表が就任する。

本部道院は、本山直轄の根本道場(根本道院)である。したがって、根本の根本たる「機能としてのはたらき」

がある修練道場として、そのあり方を更に研究していく。

併せて、2011年4月に施行する、機構改革を見据えて、試験的に実施していくことも視野に入れて運営していく。(飯野貴嗣)



愛知県教区

道院長の役割を再認識する

2009年12月7日、名古屋会議室にて愛知県教区研修会が行われました。参加道院数95、拳士数89人でした。

田村明宗務局長による講演では、ご自身の経歴などを始め、「金剛禅について」をテーマに、幅広く語っていただきました。愛知県教区としての研修会は初めての試みでしたが、教区の本旨・県連との関係など8項目について話してくださいました。「道院同士の横のつながり、助け合いを組織的につくる」のが教区制度のねらいであること、「道院長は師家に代わって金剛禅門信徒を教化育成する」立場であることを改めて学ぶことが



できました。

田村局長の熱意と使命感と責任感が十分伝わり、県内の道院長も自分たちの役割について再認識することができ、有意義な研修会となりました。

(松浦茂光)

倉敷東道院

設立30周年記念大会

10月18日、倉敷市のアイビースクエアにて、伊東香織倉敷市長、村田吉隆衆議院議員など多くの来賓をお迎えして、倉敷東道院設立30周年記念大会が盛大に執り行われました。

当道院は、「地域社会に貢献し、自立できる青少年を育成すること」を理念に、1978年12月17日、林節男道院長により発足しました。道院の門をくぐった拳士は現在、指導者として歩んでいる拳士を含むと、のべ600人を超えています。

記念大会は午前「演武祭」、午後「祝賀会」を行いました。

演武祭では、「育てる少林寺拳法」「鍛える少林寺拳法」「養う少林寺拳法」の3つのテーマで構成し、「全員参加、全員主役」のスローガンに基づき、入門したばかりの拳士から長く修行してきた拳士まで、この日のため

に一所懸命修煉してきた成果を披露しました。最後は、林道院長と中学生の長尾琢登拳士との48歳の年齢差を感じさせない見事な演武で締めくくりました。

祝賀会では、和やかな雰囲気の中、出席者同士、歓談し、30年の歴史を振り返りました。倉敷東道院は、これからも多くの人々の支えに感謝しながら、林道院長のもと、更なる飛躍を遂げるべく精進していこうと心新たにした一日でした。

(森 春樹)

福島桑折道院

設立30周年記念祝賀会

10月25日、ホテル福島グリーンパレスにて、福島桑折道院の設立30周年記念祝賀会が開催されました。拳士、保護者、道院OB、福島県教区の各道院長と幹部の方々、また東京方面から、齋野光樹道院長が若いときに元東京白金道院と一緒に修行された先生方が多数お祝いに駆けつけてくださり、総勢120人の大盛会となりました。

齋野道院長は法話でよく子供たちに、「君たちは何のために少林寺拳法をやるの? それは少林寺拳法を通してたくさんの仲間をつくるためなんだよ。い

ろんな人と出会って、多くの友達をつくって、友達が困っているときには助けてあげる。逆に自分が困っているときには助けてくれる。人と人の信頼関係が大切なんです。そういう人間になれるように少林寺拳法を修行するのです」と話をされます。それを齋野道院長自ら実践してきたからこそ、多くの方が駆けつけてくださったのだと思えました。

この日は奇しくも開祖が62年前に少林寺拳法を創始した記念日でもあります。そのよき日に、道院長を中心に楽しいひとときを過ごすことができましたことは、非常に喜ばしいことでした。最後に道院長を陰で支えてくださった奥様に感謝の意を表しますとともに、私たち拳士も次の40周年記念を迎えられるよう更なる精進に励みたいと思います。

(佐藤佐知雄)

本山に絵画が寄贈されました

11月21日、本山において故・藤澤匠鳩ヶ谷道院長夫人の恭子様より、絵画『土器山』が寄贈されました。この絵画は、終戦により中国から引き揚げ、香川県で油絵による芸術活動を開始した故・藤澤道院長が、1952



ある山で、「香川のみどり百選」の一つ。讃岐富士(飯野山)と並んで、本山の開祖霊廟の窓から一望できます。この度の寄贈は、「本山に作品を飾ってもらいたい」という故人の生前の願いにより実現しました。絵画は、本堂1階玄関ホールに飾られ、多くの来山者に鑑賞されております。

(藤井省吾)



変わらなければならないものと変わってはいけないもの

世は情報社会の花盛り。よきにつけあしきにつけ、噂うわさというもののはまばたきをする間もなく世界中を駆け巡るのが現代社会です。

変わらなければならないものと、変わってはいけないものとは何かと問いかげられたとき、我々は迷わず「金剛禪の教え」と「少林寺拳法の技法」が変わってはならないものであり、変わらなければならないのは修行者である自分自身であると答えが出てこなければなりません。

開祖は、釈尊の臨終に際しての最後の言葉を例に出し、「とりわけ移ろいやすいのが人の心であるからには、せめて、志の根源を見失わないために、常に怠らず努めるしかない」と言われているように、金剛禪の修行者は開祖の志を十分に理解し、原点である人づくりによる国づくりの道を目指さなければなりません。

「自分は変わった」という話
はよく聞きます。かくいう私自身も少しは変わったと思います
が、まだまだ修行不足を痛感している今日このごろです。
では、他人に影響を与え、変

えることができたと問われると、これも修行半ばではないかと反省しきりといわざるをえません。

自身日々、自戒と反省をして不足部分を改める勇氣があるからこそ、人は変わるものであり、信じて疑いません。

自分が変われば他人が変わり、組織が変われば地域が変わり、社会が変われば国が変わると言葉や文書では簡単にいえませんが、現実においては、そう簡単にうまくいくわけもありません。だからこそ、我々金剛禪の修行者はなおさら、一生を掛けてこの道に努力精進をしていかなければならないのです。

また、自己確立ができただけで満足しているのではなく、その先にある自他共榮ができて初めて人は変わることができるといえます。

漸々修学、一步一步自分の足で確かめながら進むことこそが、自己確立への道であるともいえ、その道は果てしなく険しいが、価値のある道であるゆえ、信じてこの道を進んでいくにはありませんか。
皆さん頑張りましょう。

開祖語録 ダイジェスト

1979年11月25日
定例(受験者に対する
法話)

この間、実業団大会がありました。すばらしいパンフレットができた。

少林寺の原点についてね。非常にうまくまとめてくれておるので、これは教科書にもなるような内容です。教範のエッセンスみたいなものをまとめてくれておるわけです。私がしたんじゃない、少林寺で育った若い人たちが、30年たって、成長してね、そうしてこういうことをしてもらえようになった。大変うれしいことです。

お釈迦しよかさんが死んで二千五百年になる。日蓮にちれんが死んで六百年になる。キリストが死んで二千年になる。でも、教えは今も

残ってますよね。

私呼びかけたこの金剛禪運動という、一種の世直し運動も、もう完全に根が降りましたね。こういうパンフレットとか、各地から手紙とか送ってくれるので、それを見て確信が持てるようになった。私が言うことをまとめて、私よりもっといい表現で伝えようという人がどんどん出てきたということだ。

そういう意味で、私は今非常に、精神的に豊かに生きています。君たちもどうぞひとつ、少林寺拳法をやって、そうやってもらいたいと思う。金剛禪の教え、要するに考え方が残ると思っています。



今や根が降りた金剛禪運動
その教え・考え方は残ると思う

※この開祖語録中の「少林寺」は、金剛禪総本山少林寺もしくは少林寺拳法を意味しています。

2010年勤続表彰

●50年

田村道明(高松中央道院)
中山久義(宇多津道院)
篠原正(綾歌道院)
西村建夫(高知南国道院)

●45年

片桐義雄(北斗道院)
大屋昭夫(世田谷道院)
秋吉好美(多摩豊田道院)
牧野清(西陣道院)
有馬正能(西宮西道院)
今井明雄(明石道院)
高山恒一(生駒道院)
小池孝忠(岡山中央道院)

●40年

甲斐哲夫(苫小牧中央道院)
川村誠(秋田矢留道院)
西地勝彌(船橋南道院)
中平新一郎(練馬道院)
加藤喜博(横浜 港道院)
佐藤一司(横浜寿道院)
岩田定(湘南誠志道院)
松木長實(鷺沼道院)
柿沼實(東戸塚道院)
小池靖彦(伊那道院)
近藤三之(遠州袋井道院)
進藤勝則(刈谷中部道院)
永田憲一(山科道院)
鈴木宏(洛南道院)
市川昌弘(田辺西道院)
小笠原國勝(和歌山宮道院)
森川久義(岡山玉原道院)
高橋貞夫(吳広道院)
長田正紀(山口西京道院)
佐伯敬三(聖島道院)
本田演昭(壬生川道院)
池本孝一(高知野市道院)
佐藤健二(福岡西道院)
中村征男(筑前中部道院)
西原良輝(久留米道院)
瀬戸口信夫(伊万里道院)
後藤正人(鹿児島錦江道院)

●35年

上野勝幸(札幌厚別道院)
酒田政明(名寄ピヤシリ道院)
渡辺司(福島双葉道院)
谷田川正(茨城大野道院)
倉田幸明(埼玉狭山道院)
大野木惠三(埼玉鶴瀬道院)
藤田守(豊島道院)
西山信夫(東京ひばりヶ丘道院)
石川嘉勇(東京野方道院)
伊藤昌昭(久米川道院)
形屋信二(江東砂町道院)

福島偉勢男(湘南茅ヶ崎道院)
徳長仁(長岡城西道院)
安島隆夫(金沢城西道院)
堀江正美(越前府中道院)
廣瀬修治(岐阜東道院)
竹岡幸徳(伊豆下田道院)
池ノ谷泰作(豊川西道院)
朝倉康夫(豊橋東道院)
村田昌治(近江八幡道院)
池田昭雄(洛陽道院)
奥村真邦(京都乙訓道院)
峠徹(京都京極道院)
坂本義昭(大阪交野道院)
大津好央(大阪津田道院)
古谷康雄(大阪金岡道院)
西村軍平(春木道院)
榎本博志(奈良西道院)
田中正則(水島中部道院)
竹内琢磨(美作勝央道院)
木村隆司(広島基町道院)
中込偉(福山北道院)
庄野雅巳(貞光道院)
安田壽廣(福岡若獅子道院)
阿部康廣(福岡南道院)
秀島和海(佐賀有田道院)

●30年

成田實(札幌北都道院)
岡部好孝(盛岡中部道院)
松川守(松戸学法道院)
高橋功(千葉富来田道院)
永井奨武(東京千代田道院)
篠崎留平(相模原西道院)
石切山恭明(清水南部道院)
井神健二(名古屋瀬古道院)
中村健次(東近江道院)
西村萬壽雄(大阪住吉道院)
時任典人(姫路林田道院)
小林登(大麻道院)
安藤武(徳島渭東道院)
藤田武夫(徳島国中寺道院)
鎌田智(高松木太道院)
喜田良延(高松南道院)
桜木照彦(佐賀二里道院)
山本五十男(諫早東道院)
外川誠一(熊本平成道院)
山井辰夫(宇佐道院)

●20年

鈴木聖一(北海道深川道院)
竹田則幸(北海道厚岸道院)
天内司(青森藤崎道院)
石山雅明(秋田西道院)
田中勝義(会津猪苗代道院)
林忠一(常陸小川道院)
近藤純雄(河内龍興寺道院)

永島良一(埼玉下戸田道院)
鈴木良一(東京五反田道院)
渡辺孝藏(東京王子道院)
近藤和彦(相模原南道院)
吉田勝佳(川崎麻生道院)
西山充(西湘山北道院)
諸星敏廣(厚木南道院)
中場義洋(富山西道院)
福沢昭文(山梨石和道院)
宮坂修一(信州戸倉道院)
山川孝彦(岐阜長良道院)
金武浩幸(鷺沼南道院)
山下政雄(愛知柏原道院)
木村将士(名古屋藤ヶ丘道院)
水野弘(名古屋清明山道院)
多月文博(春日井鷹来道院)
向井隆輝(東大阪加納道院)
鷲森弘次(茨木緑ヶ丘道院)
山中健作(伊丹西道院)
沖田隆宏(播州御津道院)
糸井善弘(神戸西神道院)
上田俊雄(海南中野上道院)
田沼昭典(紀伊由良道院)
高畑一郎(倉敷郷内道院)
山田裕治(広島矢野道院)
渡辺實(善通寺中央道院)
宮本公己(伊予八幡浜道院)
宮園素直(大牟田新世道院)
木寺慶和(佐賀山代道院)
折戸政和(諫早西道院)
西田裕二(人吉球磨川道院)

●10年

菅原亘(札幌白石道院)
坂田勉(札幌楡道院)
芳賀健一(岩見沢北道院)
高野秀樹(上河内東道院)
鈴木明良(高根沢東道院)
渡部晶彦(流山北道院)
宮内靖(東京田無道院)
内田隆(田無南道院)
川端義久(東京大泉西道院)

渡辺英夫(海老名国分道院)
田原敏正(富山有磯道院)
古川勝(中津川道院)
橋本和志(岐阜可児道院)
村松立比呂(浜松可美道院)
江間秀樹(引佐道院)
坂本利通(尾張旭南道院)
米住隆史(名古屋桃山道院)
久野康司(名古屋神の倉道院)
民谷敏夫(愛知上里道院)
鈴木剛正(知多阿久比道院)
服部俊美(豊田末野原道院)
丹下忠晴(木曾川西道院)
安田睦夫(三重北勢道院)
川北洋行(三重白山道院)
川上鐘成(西陣北道院)
西村文男(大阪吹田道院)
村島哲(八尾山本道院)
澤井憲男(柏原東道院)
中野多恵(土塚東道院)
芝貴裕(明舞道院)
山田俊也(東加古川道院)
土堂誠(鳥取西道院)
西脩一(岡山高梁道院)
弓場靖(児島西道院)
河田安雄(詫間道院)
宇都宮俊二(愛媛宇和道院)
山内昇(長崎親和道院)
佐々木健二(長崎浦上道院)
馬場高嗣(長崎有家道院)
鳥飼美和(熊本西道院)
安東豊子(豊後高田道院)

少林寺拳法グループ表彰

大日道院
境港道院
藤本義政(姫路白鷺道院)
福家健司(砂川高校少林寺拳法部)

禅学学園表彰

武道専門コース 静岡地区

少林寺拳法世界連合特別功労表彰

故・日野和喜、日野加代子

僧階昇任者

権大導師

■2009年12月1日付
佐藤 佐(松ヶ崎小学校)

中導師

■2009年12月1日付
須藤 秀一(会津若松道院)
奥谷 成弘(名古屋森孝道院)

■2010年1月1日付

池内 一文(唐津西道院)

権中導師

■2009年12月1日付

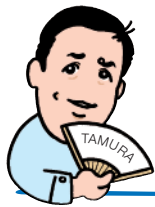
岡部 悟士(名古屋高針道院)
北野 裕士(大阪高槻道院)

3月の本山行事

21日(日) 特別昇格考試

4月の本山行事

17日(土) 都道府県教区長研修会
18日(日) 定例昇格考試・帰山



宗務局長 田村 明

vol.9 坐禅

前号からの続き

清風

内修と外修、これは金剛禅門信徒の修行法であるが、この内修と外修の調和こそが金剛禅の求めるものである。この心と身体、すなわち精神修養と肉体の鍛錬、そして社会実践をするところが門信徒に求められている。信(内修)あつて解(外修)なければ無明を増長し、解あつて信なければ邪見を増長する、といわれる。

そういう意味で修行法を見てみると、認識しておかなければならないことがたくさんある。この修行法は、易筋行修行の場だけではなく、当然日々の生活の中での行法のことが多い。内修と外修に分かれているが、共に積極的の部分は易筋行修行の場所でもできるし、日々の生活の中でもできるものである。いわゆる「行住坐臥」日々修行実践である。

消極的の部分は意識をして行動することが必要であろう。内修の中では、特に反省行と感謝行は常識ある人間として必要なものである。反省から人間としての成長があり、感謝から生かされている自分を確認する。また、反省や感謝は謙虚さを生み、品格のある人間へと導くことになる。

一期一笑



イラスト/大原由軌子

今が一番動ける時

道を歩いていて、大きな荷物を抱え片足を引きずって駅に向かうご婦人を見かけました。お声をかけて途中まで一緒にしながらお話をしましたら、私もお会いしたことのある有名な義肢装具士の所に行かれるところでした。膝を悪くされて、京都の知人の紹介で神戸から75歳と高齢ながらお一人でいらしていました。本当に合う器具が出来ているのか不安そうでしたので、「その先生ならきっと合うようにしてください。は、どうぞ」と申し上げると、柔らかな表情になられました。

別れ際、その方がおっしゃったのは、「一緒にいた私の娘を見ながら」今は、たかさんのお金と大きな家がありますが、身体がこうではやりたいことができません。若いときは仕事をし

て落ち着いてからなんて思っていました。落ち着いたころには動けない……。子育て中の今が一番動ける時です。やりたい事は何でもなさってください。すべてのやりたい事を今なさるおつもりで。大きく背中を押しておきたいお言葉です。今こそは笑顔で神戸に戻られていることを願ってやみません。

(沖縄礼那道院・島袋容子)

投稿大募集 道場や拳士のちょっといい話を募集しています。
※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。
なお、原稿内容の整理・編集をさせていただきます場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 東京別院 広報誌担当宛 TEL.03-5961-1400 FAX.03-5961-1401 e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp



係長 宮内幸代

室長 堀家富世

事務局紹介のコーナー

本山見える課

File.9 秘書室 (2010.1月現在)

秘書室は、役員が組織運営をスムーズに遂行できるよう、スケジュール調整・管理を含めた業務全般の補佐をしております。

全国各地で活躍されております道院長や門信徒の皆様の声を役員に届け、身近に意見交換できるようパイプ役としてサポートさせていただきます。

私たち自身が、今のままをすべてだ

と思わず、自己点検をし、進化し続け、組織の「人財」になれるよう努めてまいります。そのためには、人との対話を大切に、皆様に感謝の気持ちを忘れず関わらせていただきたいと思ひます。

仕事を通して感性を磨き、自己成長を楽しむことを心がけて業務に取り組んでまいりますので、これからもよろしくお願ひいたします。



木葉送

宗門の行としての少林寺拳法

Ryuka Ken, Konoha okuri
りゅうかけん このはおくり
龍華拳 木葉送

木葉送は、^{おくりごと}送 小手系の仕掛けの捕技である。「木の葉は握りしめたら割れてしまうぞ」とは開祖の言葉で、相手の手を軽く包み込むようなイメージで仕掛けるとよい。また、一方の手で、相手の手首を打ち殺した後、手をずらし^{ぼしきゅう}拇指丘を深く握り、「^き極め」の形を作る。手首→^{ひじ}肘→肩へと各関節の遊びを取り、肩を送ることで片足立ちにして、体勢を崩して制する。

撮影/近森千展 文/飯野貴嗣 演武者/守者:川島一浩 正範士七段 攻者:飯野貴嗣 大拳士六段

表紙 ^{かねもとよしとし}金本孔俊/北極圏ブルックス山脈で遭遇した2頭のカリブー。【プロフィール】1954(昭和29)年、兵庫県生まれ。88年、フォトスタジオ「ゴールド」設立。94(平成6)年からアラスカでオーロラを撮影し、ライフワークとして情熱を注ぐ。写真集に『神秘アラスカ』(京都書院)『ALASKA』(青幻舎)、『聖夜 ALASKA-Holy,Night』(青幻舎)がある。神戸六甲道院、正拳士四段。http://www.studio-gold.com

編集後記▶誰も過ぎ去ったことより、これから現実に直面するであろうことに期待と希望を抱く。つい2か月前に「新年明けましておめでとう」と新春法会で挨拶した。▶今度は団体としての新年度が始まる。開祖生誕100年を1年後に控え、機構改革構想も秒読みに入。プロジェクトチームによる構想の実施確認をする最終年になる。▶新年度の事業方針も、開祖の理念を基本とし、一致協力、理想境実現に向かっていきたいものだ。(あ)

発行人:浦田武尚 発行所:金剛禅総本山少林寺 〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 ☎0877-33-1010 <http://www.shorinjikempo.or.jp>
編集人:秋吉好美 企画・編集:金剛禅総本山少林寺東京別院 〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 ☎03-5961-1400 e-mail aun@shorinjikempo.or.jp
金剛禅総本山少林寺広報誌「あ・うん」 2010年3月1日発行(奇数月1日発行)通巻第9号 印刷・製本:(株)ブル・ドック
※本誌の発行に掛かる費用には、SHORINJI KEMPO UNITYによるライセンス事業の収益金が活用されています。

<http://www.shorinjikempo.or.jp/aun/index.html>では、誌面に掲載仕切れなかった記事、写真のほか、動画などもご覧いただけます。